

富岡町の発展を見据えた 心とふるさと再生の加速化

福島県富岡町

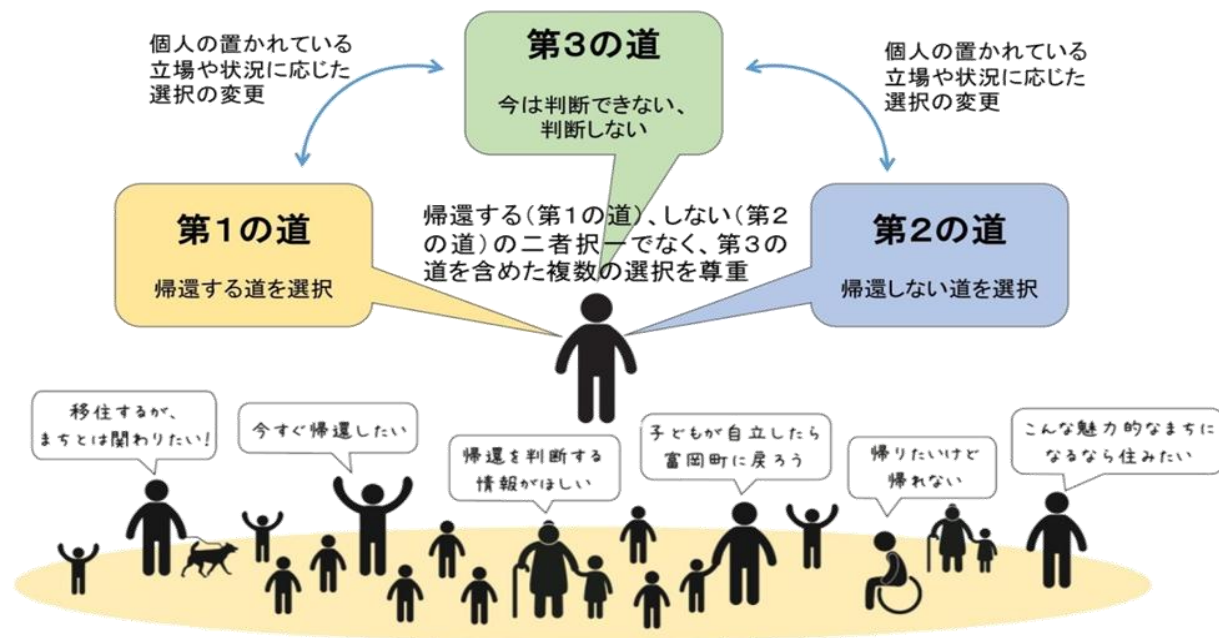
富岡町復興の集い2017
(2017(平成29)年4月8日)



- どの道を選んでも、ふるさとに誇りを感じ 富岡のつながりを保ち続けられる町
- これからも加わる仲間も居心地よく親しめる地域をめざして

◇富岡町は、帰還する【第1の道】しない【第2の道】の二者択一ではなく、今は判断できない（しない）【第3の道】を含めたあらゆる町民の意向を尊重します。

◇町民と町との関わりの継続や将来帰還、さらに新たな住民も含め、魅力あるまちづくりを進めていきます。



基本理念と基本方針

基本理念 1

町民一人ひとりの“心”の復興

基本理念 2

町民の心をつなぐ“ふるさと富岡”の復興

基本方針 1
生活の再建

基本方針 2
町内の復旧・復興

基本方針 3
絆づくり

基本方針 4
情報発信

基本方針 5
実行体制づくり

2016（平成28）年



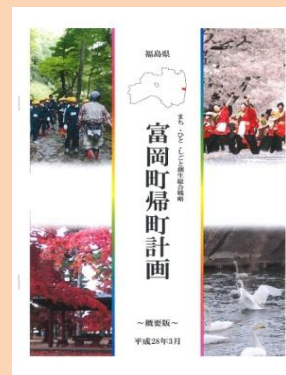
再生・発展の先駆け
アクションプラン



保健・福祉
アクションプラン



人と町とのつながり
アクションプラン



富岡町帰町計画

- ・町民一人ひとりに寄りに添った帰還環境の整備
- ・帰還に関する考慮要件の客観的評価
- ・帰還開始時期の見極め

2017（平成29）年



農業復興
アクションプラン

帰還困難区域
再生ビジョン

（仮称）
帰還困難区域
再生計画

駅前賑わい
アクションプラン



富岡町防災計画

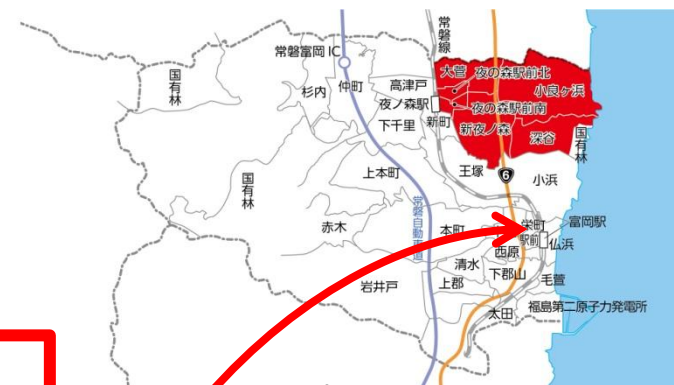
- ・東日本大震災及び原子力発電所事故から得た教訓を反映

離れていても
「ふるさとへの思い」を
富岡の未来へつなげるために



富岡町災害復興計画（第二次）を具現化

- 双葉郡の中核都市としての富岡町の再生
- 将来の発展に向けた魅力あるまちづくり



2017（平成29）年4月1日
町内の一部地域避難指示解除

対象エリア



第二次復興計画において『復興拠点』と位置づけた区域のうち、同内・曲田地区及び役場周辺を町全体の再生・発展の先駆けの地として本計画の対象とします。

対象期間

2015～2017（平成27～29）年度の3年間

富岡町の再生・発展を先駆ける三本の柱

“くらし”の再生

住宅と医療・福祉施設の集約・整備で、住民にやさしい生活空間づくりを進めます。

にぎわいづくり

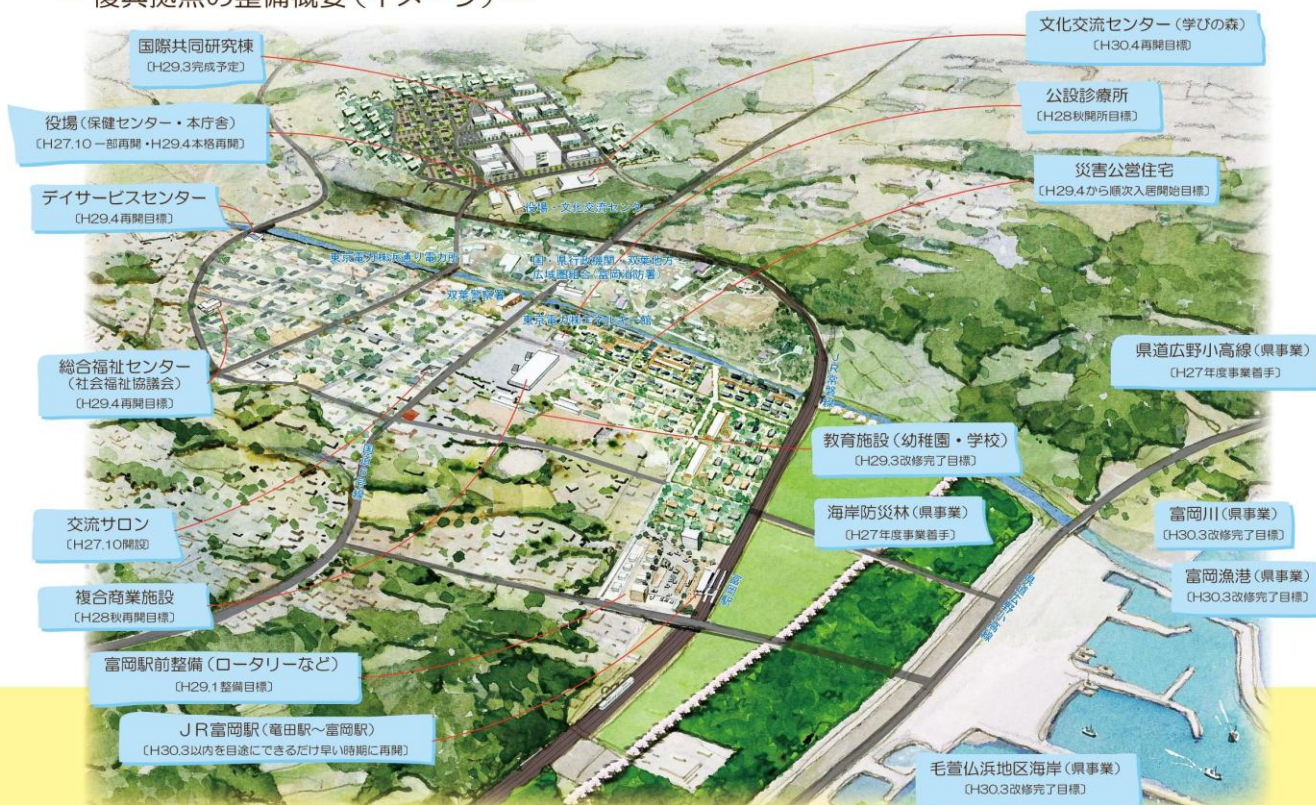
複合商業施設、交流サロン、駅前整備、公共交通の再開などにより、さまざまな人が集い賑わう“まちづくり”を進めます。

あらたな交流拠点

双葉郡の中核を担う「人びとと交流の地」の復活と発展に向けて、「日本原子力研究開発機構（JAEA）廃炉国際共同研究センター」とアーカイブ事業を核にした新たな交流拠点づくりを進めます。

復興の第一歩

～復興拠点の整備概要（イメージ）～





とみおか診療所 開設
2016（平成28）年10月



災害公営住宅（第1期）
2017（平成29）年3月



災害公営住宅（第2期）

- ◎整備戸数：104戸（戸建て・集合）
 - ❖戸建て
 - ・2LDK（平屋） 14戸
 - ❖集合
 - 3階建て・2DK 13戸、2LDK 27戸
 - 4階建て・2DK 31戸、2LDK 19戸

くらしの再生

複合商業施設さくらモールとみおか 開設
2017（平成29）年3月



JR富岡駅前広場
2017（平成29）年4月 供用開始



路線バス・デマンド交通
2017（平成29）年4月 開始



にぎわいづくり

廃炉国際共同研究センター
国際共同研究棟 開所
2017（平成29）年4月



富岡町文化交流センター 再開
2017（平成29）年4月



アーカイブ事業

- ・福島大学との協定 2015（平成27）年8月
 - ・富岡町アーカイブ施設検討町民会議の設置 2016（平成28）年7月
- アーカイブ事業について、本格的な検討を開始

あらたな交流拠点



〔2017 現状〕

ふるさと富岡を 未来につなげる 新たなステージ

〔2017 取組や課題〕

帰還困難

帰還困難区域全体の再生に向けた、**再生計画の策定**

徹底除染

除染の長期目標 1mSv／年に向けた **徹底した除染の継続**

帰還促進

帰還意欲を高める**魅力的なまちづくり**

生活支援

すぐに帰還できない**町民への支援**

復興財源

本格復興を推進するための**財源確保**